

2025年1月31日（金）

東京大学本郷キャンパス 福武ラーニングシアター

人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業フォーラム

人文学・社会科学データインフラストラクチャー 強化事業における取組

報告4：奈良文化財研究所

報告者：武内樹治（奈良文化財研究所）



独立行政法人 国立文化財機構



奈良文化財研究所

Nara National Research Institute for Cultural Properties

記録が
伝えない
歴史の事実
Discovering historical
facts previously
unknown from
written records

発掘調査
研 究
Excavation



文化遺産
研 究
Research



文化遺産の
総合研究
Conducting comprehensive
cultural heritage research

次の世代に
伝える文化財
Transmitting cultural
properties to
future generations

保 存
Conservation



活 用
情報発信
Presentation

古代を
いまに活かす
Giving new life
to ancient remains



► 東京国立博物館

日本と東洋の文化財を守り伝える中心拠点としての役割を担う我が国の総合的な博物館です。



► 京都国立博物館

平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財を取り扱う地域に根ざした博物館です。



► 奈良国立博物館

仏教美術及び奈良を中心として守り伝えられてきた文化財を取り扱う博物館です。



► 九州国立博物館

「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」をコンセプトにした博物館です。



► 東京文化財研究所

文化財全般にわたる調査研究や保存修復、さらには文化財保護の国際協力を行う研究所です。



► 奈良文化財研究所

平城、飛鳥・藤原地域の遺跡、建造物や歴史資料等の調査と保存活用を研究する研究所です。



► アジア太平洋無形文化遺産研究センター

アジア太平洋地域の無形文化遺産保護のための調査研究を行うセンターです。

木簡 奈文研 + 自治体データ

木簡とは？

発掘によって見つかる墨書のある木片を、広く木簡と呼んでいます。発掘によってみつかる出土文字資料には、木簡のほかに、墨書土器、漆紙文書などがありますが、情報量の多さという点で、木簡は最も代表的な出土文字資料といえます。2003年以降、平城宮跡をはじめ、広島県草戸千軒町遺跡、山田寺跡、滋賀県西河原遺跡群などの木簡が、順次国の重要文化財に指定されています。



木簡出土の様子

木簡の発見記録は江戸時代にもあり（秋田県小ヶ田埋没家屋。『菅江真澄全集』九）、現物の伝わるものとしては、昭和初期の秋田県払田柵跡や三重県柚井遺跡で見つかった木簡の例がありますが、本格的な研究の始まりは、1961年（昭和36）1月の平城宮跡最初の木簡の発見がきっかけになりました（復元された第一次大極殿の北側に奈良時代後半に設けられた役所〈推定大膳職〉のゴミ穴 S K219）。以後半世紀、木簡出土事例は全国各都道府県に広がり、年代も630年代頃から近代にまで及んでいます。木簡はまさに時間と空間を越えた普遍的資料といえます。全国の木簡出土遺跡は既に1000を超え、総点数は約37万点以上に達しています。そのうち平城宮・京跡で約17万点、飛鳥藤原地域で35000点に及んでいます。



木簡の保管状況



木簡データベース

WEBでひらく木簡の世界 /

木簡庫

Wooden Tablet Database

English 繁体中文 简體中文 한국어

奈良文化財研究所
Nara National Research Institute for Cultural Properties

木簡とは 使い方 ヘルプ

Post シェアする BI

木簡をさがす

すべて 本文 カテゴリー (意味検索)

検索する

キーワード

項目検索 内容 国名 木簡の形 出典 年紀・人名 大きさ・樹種等 遷跡

お知らせ 毎月第4水曜日 12~14時の間は定期メンテナンスのため、サービスを一時停止いたします。

2023/05/09 新しいデータをアップしました! (5/9) NEW

2023/01/16 新しいデータをアップしました! (1/16)

2022/10/27 11月のメンテナンス日変更のお知らせ

2022/01/12 新しいデータをアップしました! (1/12)

2021/07/29 『木簡庫』『電子くずし字典データベース』連携検索サービス終了のお知らせ

2021/01/29 新しいデータをアップしました! (1/29)

2020/06/29 新しいデータをアップしました! (6/29)

木簡とは 使い方 ヘルプ

登録点数 : 56832

文字画像をさがす

テキストから 画像から MORIZO

■添付画像

調査主体が奈良文化財研究所（奈良国立文化財研究所含む）であれば、どなたでも複製、公衆送信、翻訳・変形等の加工等、自由に利用できます。商標利用も可能です。申請不要です。詳細は [利用条件](#) をご確認ください。
高解像度画像がColbaseに掲載されている場合がありますので、Colbase (<https://colbase.nich.go.jp/?locale=ja>) でもご確認ください。

■詳細

URL	https://mokkanko.nabunken.go.jp/ja/6AJHQR47000101
木簡番号	1679
本文	・○乗造車鶴鳥「口」・「封」○「印」
総	201
寸法(mm)	横 37 厚さ 8
裏式番号	031
出典	蘇原宮4-1679(木研15-24頁-3(2) ◎飛11-11下(7))
文字部用	
形状	表簡は上端折れ、下削り、左削り、右削り、右辺下半破損。裏簡は四周削り。内面はいずれも剥いたままで未調整。表簡厚さ5mm、裏簡は厚さ4mm。三片接続。
樹種	ヒノキ
木取り	板目
迷路名	蘇原宮跡南面門跡地区
所在地	奈良県橿原市飛鶴町
調査主体	奈良國立文化財研究所飛鶴蘇原宮跡整理調査部
発掘次數	蘇原宮第69-4次
遺構番号	SD502
地図区名	6AJHQR47
内容分類	封筒
国都郷里	
人名	鶴鳥
和道	
西面	
木簡部用	

表簡は上端折れ、下削り、左削り、右辺の下半を被削する。裏簡は四周削り、内面はいずれも剥いたままで未調整。表簡は厚さ5mm、裏簡は厚さ4mm。三片接続。表裏共に、長屋王家木簡にみえる（表）「蘇麻郎司進上」（裏）「封口（印カ）」（『平城京木簡』二二二二三七）などの例により、表裏を判断した。「表道」は類似の表現として「万葉集」とみえ（卷三二一五一番歌）。淡路のごと、「幸」は園幸である。「乗造車鶴鳥」は、書出、充所のいずれとも船しうろが、膳屋宮で見舞されていることからすれば、垂出とみるべき。下端に書かれた文字は一文字で、「進」「上」などの文字、あるいは「鶴鳥」が姓である場合は名にあたり、目唇かとも推測されるが判読できない。裏簡外側の上下両端近く左右に入れ込みの位置に、「封」と「印」の各一字を記すが、ともに、紐のあたり部分が白く抜けている。

史的文書データベース連携検索システム

日本語

奈良文化財研究所
Nara National Research Institute for Cultural Properties

史的文書DBとは 使い方

検索文字 : 安

別の文字で検索 検索文字 検索する

調べたい文字を入力してください。（单文字のみで指定可能）

マニフェスト miradorで開く

木簡庫 - 奈良文化財研究所

検索結果 : 5件 ■すべての文字画像を表示

電子くずし字典データベース - 東京大学史料編纂所

検索結果 : 8件 ■すべての文字画像を表示

文化財情報の統合プラットフォーム

全文データを
検索可能!

WEBで発掘調査報告書を読める

全国遺跡報告総覧

prehensive Database of Archaeological Site Reports in Japan

書誌本文 (PDF)
遺跡 (抄録) 検索

PDF

頻出ワードが一目でわかる!
報告書ワードマップ

テキスト解析

文化財動画ライブラリー 全国の動画が探せる

論文ナビ

文化財総覧 WebGIS

位置情報 時間情報 地物

文化財データリポジトリ 報告書の画像&3D倉庫

全国文化財目録 文化財の検索がスムーズ!

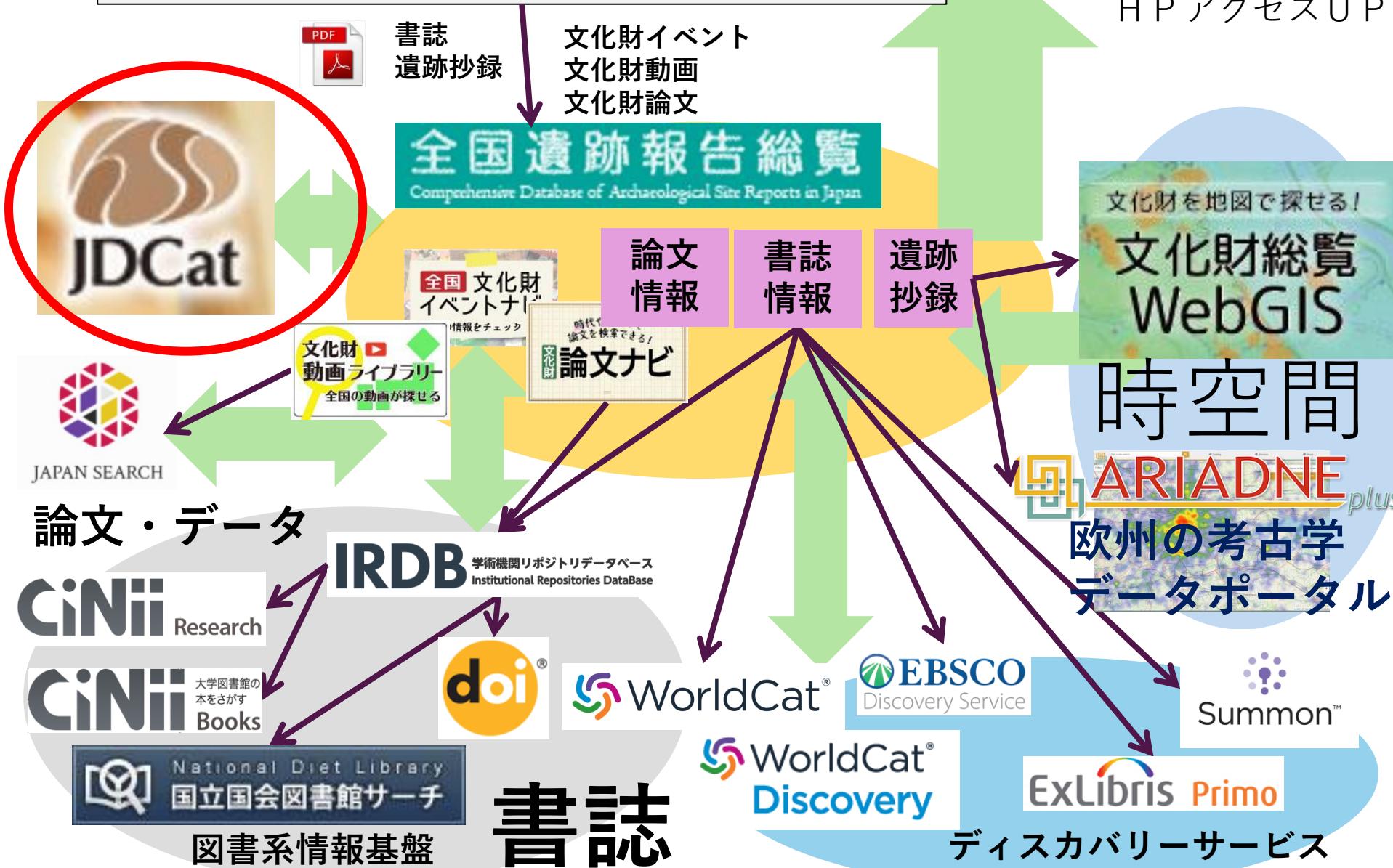
文化財情報の流通（データの流れ）

地公体（都道府県・市町村）・法人調査組織
・博物館・大学・学会等

機関HP

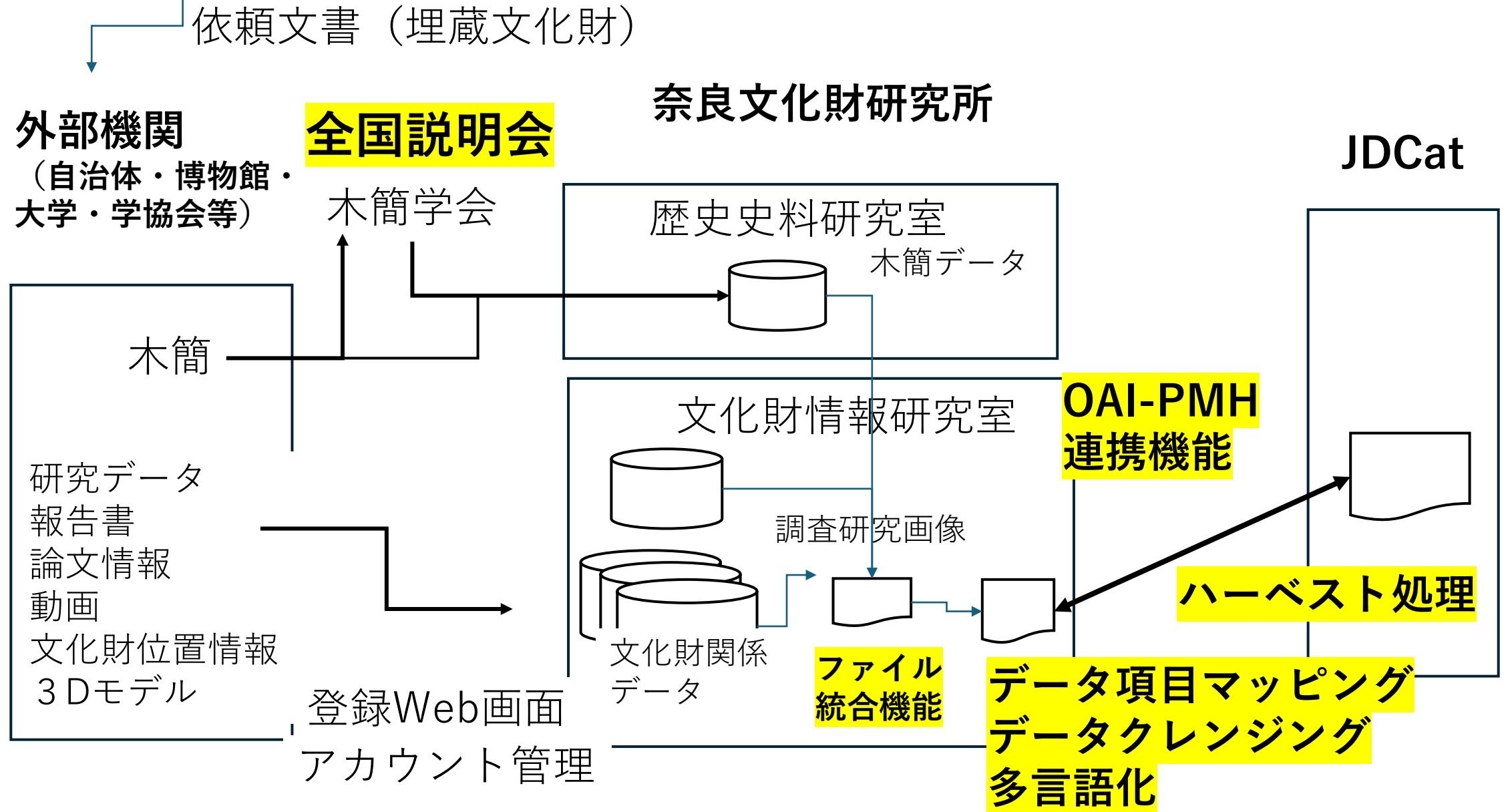


HPアクセスUP

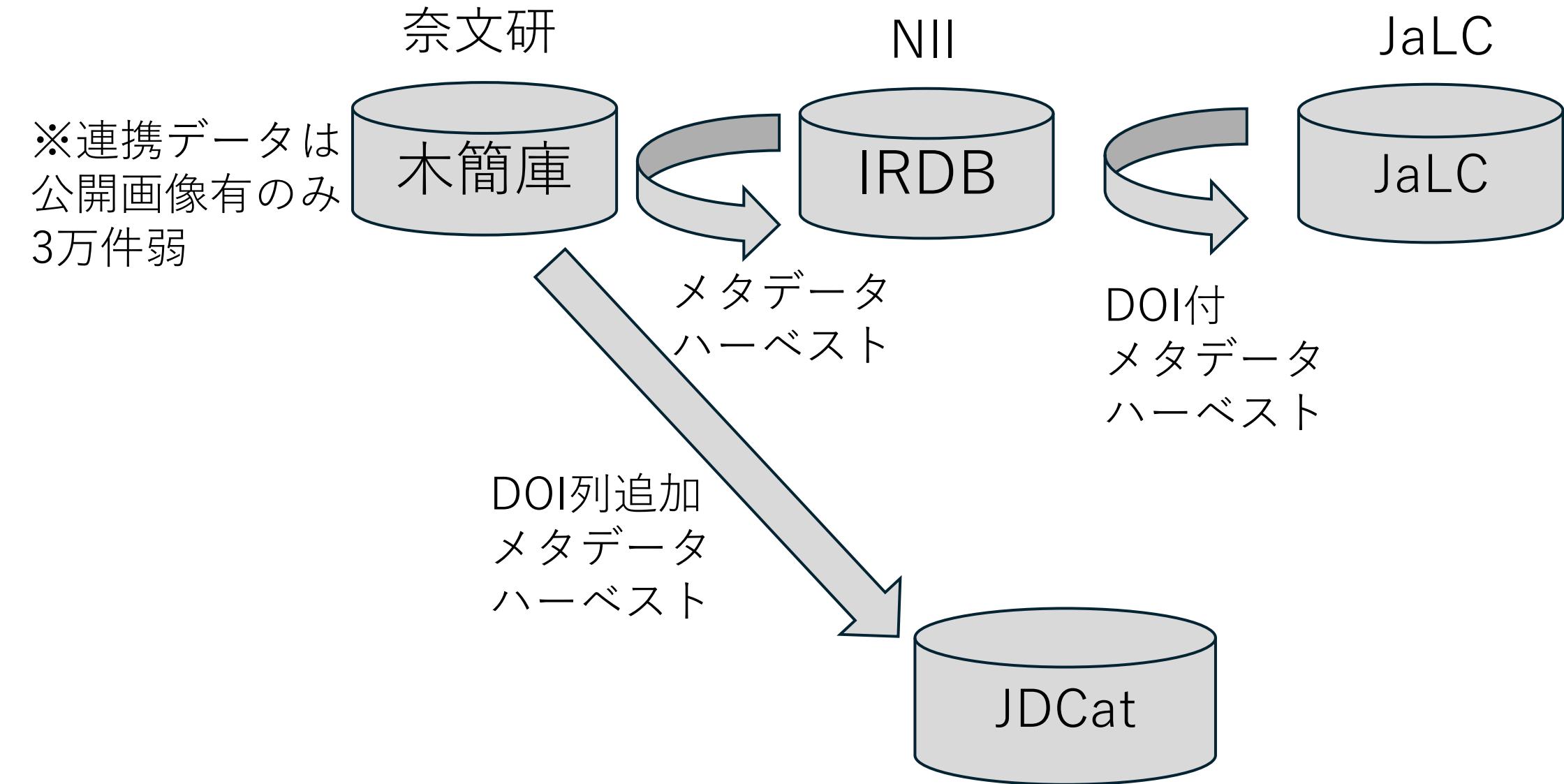


文化庁

JDcat連携の計画



木簡庫データにDOI付与



木簡データ 多言語化

- ・遺跡名

平城京

—Nara Capital

—Heijo-kyo

例) 平城京左京三条一坊一・二坪

- ・調査組織

\ WEBでひらく木簡の世界 /

木簡庫

Wooden Tablet Database

English 関体中文 繁體中文 한국어

木簡庫とは 使い方 ヘルプ

X Post 1 いいね! シェアする B! 2

木簡をさがす

すべて 本文 カテゴリー (意味検索)

キーワード 検索する

文字画像をさがす

MOJIZO テキストから 画像から

検索結果一覧へ戻る

前へ 次へ

■添付画像

調査主体が奈良文化財研究所（奈良国立文化財研究所含む）であれば、どなたでも複製、公衆送信、翻訳・変形等の翻案等、自由に利用できます。
商用利用も可能です。申請不要です。詳細は[利用条件](#)をご確認ください。
高解像度画像がColbaseに掲載されている場合がありますので、Colbase (<https://colbase.nich.go.jp/?locale=ja>) でもご確認ください。

■ 詳細

URL	https://mokkanko.nabunken.go.jp/ja/6AFJQP65000101
木簡番号	0
本文	・←口（三カ）六九五→＼←口（九カ）廿七〇二九八〇一〇一九如九・口六〇六八冊八一〇五「主紀郡郡」＼〇口
寸法(mm)	縦 (222) 横 (29) 厚さ 3
型式番号	081
出典	木研34-8頁-(4)(城41-11上(82))
文字説明	
形状	上欠、五片接続。
樹種	
木取り	
遺跡名	平城京左京三条一坊一・二坪
所在地	奈良県奈良市二条大路南三丁目
調査主体	奈良文化財研究所都城発掘調査部

2021年度日英対訳集

Yanase Peter・奈良文化財研究所

Japanese-English Glossary for FY2021

Yanase Peter・Nara National Research Institute for Cultural Properties

Nara Capital

平城京	Nara Capital
西市	West Market
東市	East Market
右京	Right Capital
左京	Left Capital
条坊	grid-like layout
条	1. (row) avenue 2. row

坊	1. (column) avenue 2. column <i>when referring to the space between two column avenues</i>
坪	block
条大路	avenue
二条大路	Second Row Avenue
朱雀大路	Suzaku Boulevard
東大寺	Tōdaiji
法華寺	Hokkeji
興福寺	Kōfukuji
大安寺	Daianji
元興寺	Gangōji
藥師寺	Yakushiji
唐招提寺	Tōshōdaiji
西大寺	Saidaiji
西隆寺	Sairyūji
田村第	Tamura-no-dai
長屋王邸	Prince Nagaya's residence
羅城門	Rajō Gate
長安	Chang'an

奈良文化財研究所研究報告 第28冊

Japanese Cultural Heritage
and Global Audiences
文化財多言語化研究報告

奈良文化財研究所
Nara National Research Institute for Cultural Properties

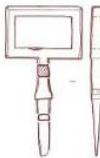
JDCatとの連携

発掘調査報告書に英語要旨が付されている場合もある

奈良文化財研究所学報第71冊

飛鳥池遺跡発掘調査報告

本文編〔Ⅲ〕
—遺跡・遺構—



独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所

2022

RESEARCH REPORT NO. 71 published by
Nara National Research Institute for Cultural Properties
EXCAVATION SURVEY REPORT ON
THE ASUKA-IKE SITE

2022

NARA NATIONAL RESEARCH INSTITUTE
FOR CULTURAL PROPERTIES

SUMMARY

A Process leading to the excavation

The Asuka-ike Site is an ancient workshop site located in Asuka village, Nara prefecture. The site lies in a small basin in the southeast of Asuka-dera Temple, the first full-fledged Buddhist temple in Japan. The site name "Asuka-ike (pond)" is derived from an irrigation pond built in the early modern period. In 1991, it was decided that the pond would be reclaimed; accordingly, an excavation survey was conducted prior to the reclamation, in order to check for the existence of any archaeological site. Consequently, it was found that workshops of the Late 7th century that had produced metalware and glass beads lie beneath the mud at the bottom of the pond.

Thereinafter, plans were conceived to build the Nara Prefecture Complex of Man'yo Culture on the site. Accordingly, the Nara National Cultural Properties Research Institute (the present-day Independent Administrative Institution, National Institutes for Cultural Heritage, Nara National Research Institute for Cultural Properties) conducted a preliminary survey between 1997 and 2001. The survey area covered 14,219 sq. meters.

The excavation confirmed that the site was extensive and preserved comprehensive workshops accumulating ancient handicraft techniques. The workshops engaged in the processing of gold and silver, manufacturing of the Buddhist altar fittings/furnishings using copper and iron, architectural hardware and tools, weapons, etc., and production of beads combining glass, quartz crystal, and amber, as well as the coinage of *Fuhonsen* copper coins, Japan's oldest coined currency. Based on the survey results above, in August 2001, the 19,981 sq. meters of land was designated as a national historic site with the name "Asuka-ike Workshop Site".

B Location and structure of the site

The site lies in a small valley between low hills that branch off to the east and west from the southern hillside. The valley line extends from a point close to the southeastern corner of the precinct of Asuka-dera Temple to about 250 meters south. It also branches off on the way to the southwest, forming a small "West Valley" about 65 meters long. In this report, the valley line leading to the Sakafuneishi Site located innermost in the valley is referred to as the "East Valley", while the valley line branching off to the south-west as the "West Valley".

At the innermost area of the East Valley is the Turtle-Shaped Stonework of the Sakafuneishi Site. The Asuka-ike Site occupies a space sandwiched between the Sakafuneishi Site and Asuka-dera Temple. The hills that constitute the western boundary of the Asuka-ike Site also form the eastern edge of the Asuka basin.

254

木簡の年代（検索性として）

① 文字資料として

木簡（釈文）に記載された日付
「木簡庫」では「和暦」「西暦」項目として収録。

② 考古資料として

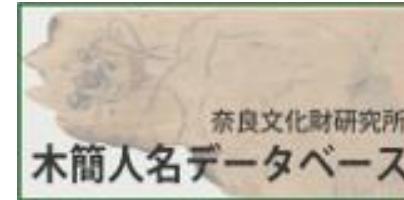
出土遺構の年代
考古学的な年代として幅がある。（例：680-710）

③ 発掘調査成果として

発掘調査の年月日
現代の発掘調査としての記録
発掘調査報告書と結びつく

木簡データ 年代付与

関連するデータベースとの照らし合わせ
木簡人名データベース



- ・文字資料
- ・考古資料

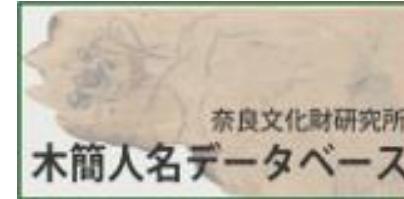
木簡人名データベース 開発の経緯

○「木簡人名データベース」は、日本学術振興会科学研究費補助金学術創成研究費「目録学の構築と古典学の再生－天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明－」（平成19年度～23年度。研究代表者・東京大学史料編纂所教授田島公。以下「創成研究」と略称）の一環として、東京大学史料編纂所と奈良文化財研究所が共同で開発したものです。

○本データベースには、科学研究費補助金基盤研究（S）「木簡など出土文字資料釈読支援システムの高次化と総合的研究拠点データベースの構築」（平成20年度～24年度。研究代表者・渡辺晃宏）および科学研究費補助金若手研究（B）「木簡の構文・文字表記パターンの解析・抽出研究」（平成20年度～22年度。研究代表者・馬場基）の成果も含まれています。○木簡に現れる人名を検索することができます。また、年代の絞り込みが可能ですが、資料そのものに年紀が書かれていない場合、出土遺構の知見に基づく年代推定（発掘調査報告書などにおける年代に関する所見を摘記しました）は、あくまでも参考資料ですのでご留意ください。

木簡データ 年代付与

関連するデータベースとの照らし合わせ
木簡人名データベース



- ・文字資料
- ・考古資料

◆本データベースにおける“年・年代”

- ①木簡に書かれた年（月日）、その人が活動した年
- ②遺構年代観による年代（開始年～終了年）

②は木簡が出土した遺構から推定される年代で、共伴遺物や土層などから推定されています。出土遺構の知見に基づく年代推定は、発掘調査報告書などにおける年代に関する所見を摘記しています。あくまでも参考資料ですのでご留意ください。

また、まれに、①と②の年代が齟齬する場合があります。これは、木簡の使用時期と廃棄時期に時差がある場合など、性質上考慮すべき点があります。

受入データ拡大へ向けて

○文化財情報

報告書データベース登録に関する全国説明会を実施

対象：地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、
大学等その他法人の埋蔵文化財担当職員等

趣旨：発掘調査報告書と、文化財動画や文化財イベント情報の連携→効果的な発信が可能
当説明会では、報告書の電子公開や文化財情報の登録の実務を説明
活用促進と普及公開に資することを目指す → データ利活用の促進とも関係

2024年度は3会場で実施

- ・鹿児島県（実施済、現地・オンライン含め173名参加）
- ・栃木県（2月実施予定）
- ・福井県（2月実施予定）



受入データ拡大へ向けて

○木簡データ

複数の機関に公開画像や木簡庫連携について交渉

→来年度以降のJDCat連携に向けて調整

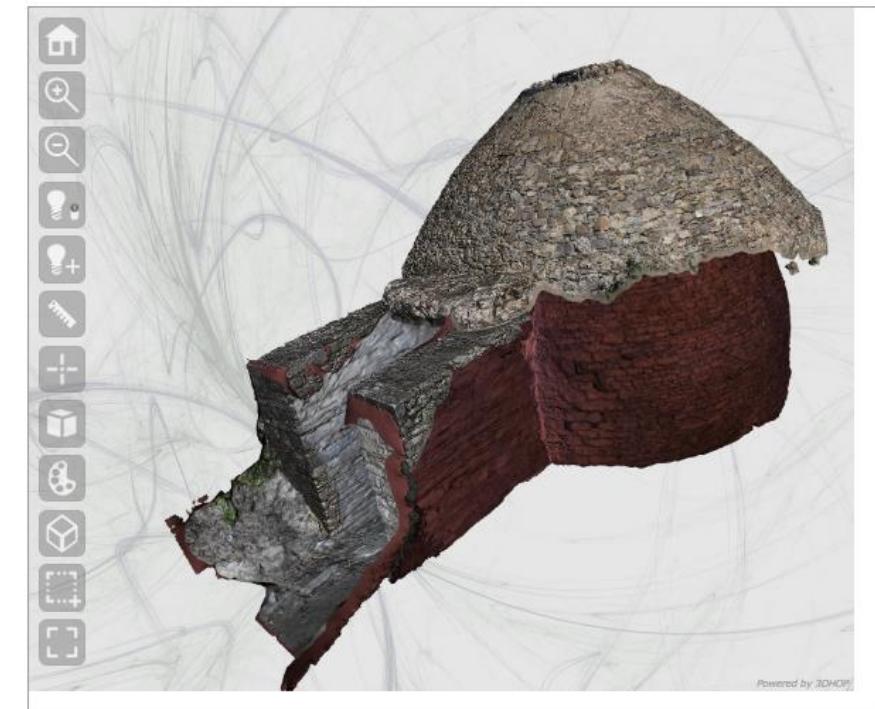


Figure 2: Oblique view of Tholos IV, Palace of Nestor. This photogrammetry model is synthesised from four separate models (chamber, antas, lintel stone, and domed roof exterior) and is georectified using both GPS-referenced control points and locally-referenced common anchor points.

海外との連携

ヨーク大学 (Archaeology Data Service) と意見交換
(3月実施予定)

日本の取り組みを周知するとともに
先進事例の情報を収集する予定



Tholos IV, Palace of Nestor. 3D model of the 1957 reconstructed tomb. This photogrammetry model is synthesised from four separate models (chamber, antas, lintel stone, and domed roof exterior).

Excavation of the tomb began on 25 May 1953, directed by Taylour and undertaken by four workmen. The narrative that follows here is an abridged account of that given by Taylour (1973, 98–107). Work began in the area of the tomb's lintel block (visible above ground), working first on the outside and then the inside of the blocking wall in the structure's doorway. The dromos (entrance corridor) of the tomb extended across the Kanakares' vineyards, and permission was only granted to dig here from half-way through the campaign. Meanwhile, the interior of the tomb was dug in two sections, separated artificially by a staircase formed to allow workmen to access the interior space (Figure 3). The floor of the tomb was found 4.9m down from the surface, revealing a structure with a total diameter of 9.35m. Excavation continued a further 1m to investigate pits dug into the tomb floor, in addition to the excavation of a stone cist found by the south-east wall. Excavation ended on 23 July, 51 days after the first trench was opened.

<https://www.intarch.ac.uk/journal/issue56/5/full-text.html>